

2010年3月期 決算説明会



2010年5月7日

株式会社 豊田自動織機

決算サマリー

2010年3月期 決算実績

(億円)

	09/3期	10/3期	増減	増減率
売上高	15,842	13,777	2,065	13.0%
営業利益	66	220	+ 286	-
経常利益	143	317	+ 174	+ 121.4%
純利益	327	262	+ 65	-

2011年3月期 決算予想

(億円)

	10/3期	11/3期予想	増減	増減率
売上高	13,777	14,000	+ 223	+ 1.6%
営業利益	220	450	+ 230	+ 104.5%
経常利益	317	500	+ 183	+ 57.4%
純利益	262	270	+ 532	-

. 2010年度方針

2010年度方針 ～ 攻めに転じる年～

構えのスリム化を維持し、企業体質強化を継続

守りを固めつつ
攻めに転じる

市場の変化を敏感にとらえ、
ビジネスチャンスを実確につかむ

1. フォークリフト市場の回復と当社の施策
2. 「新興国」「3E」(Environment, Ecology & Energy)をキーワードにリソースを投入

・事業の取り組み

1. フォークリフト市場の回復と当社の施策
2. 「新興国」「3E」をキーワードにリソースを投入
 - 1) 自動車事業の取り組み
 - 2) 産業車両事業の取り組み

産業車両事業 構えのスリム化と黒字転換

世界市場が50万台レベルにとどまることを想定し、構えのスリム化を推進

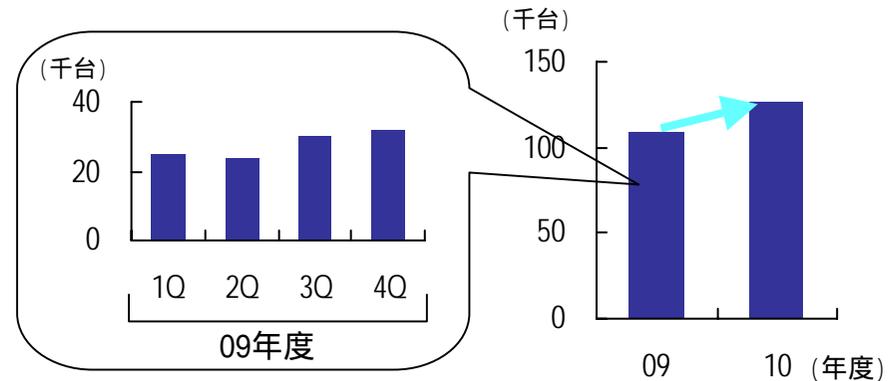
1. 固定費の大幅削減

- 国内外各拠点での人員の適正化
- 生産拠点の再編
- 設備投資の抑制
- 経費の徹底的な削減

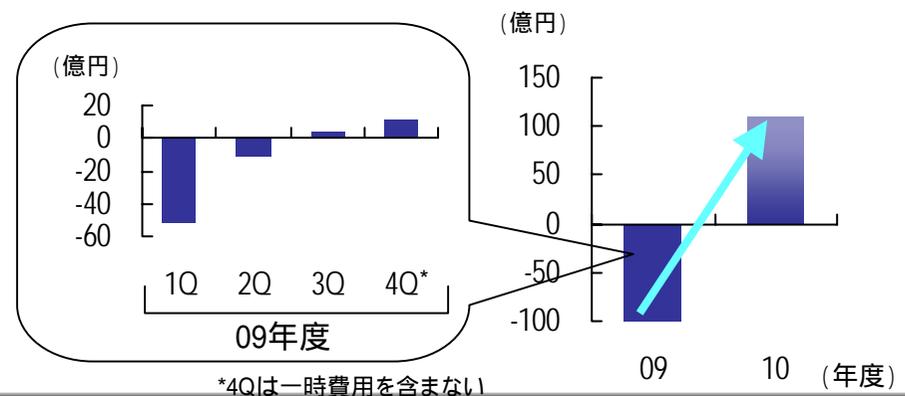
2. 固定資産の減損処理

販売台数10万台で利益の出る体質をめざし、09年度3Qで黒字化達成

販売台数

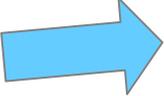
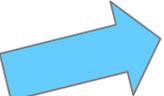
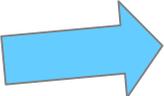
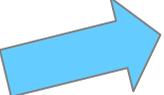


営業利益



産業車両事業 足元の市場動向と当社の施策

市場回復の動きをとらえ、販売台数増をねらう

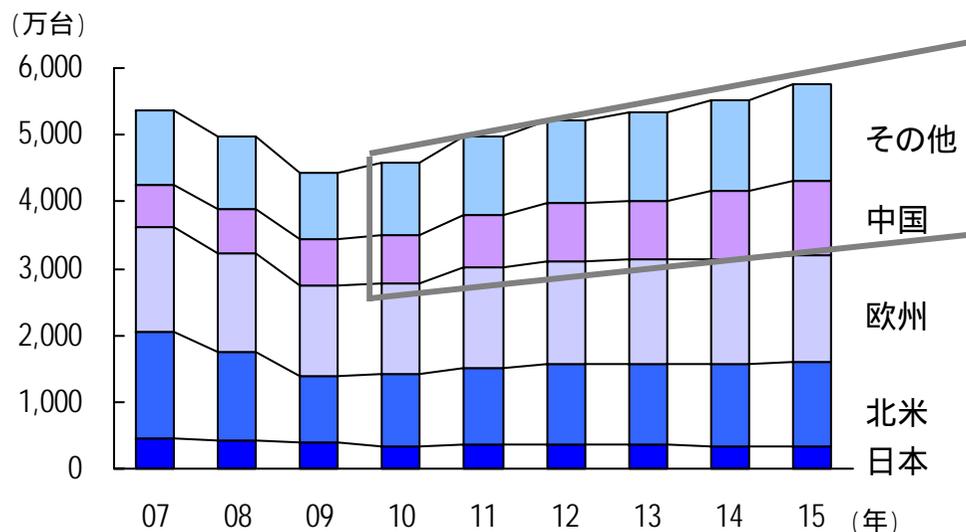
市場	2010年の市場の動向	当社の施策
日本		<ul style="list-style-type: none"> • ソリューション営業の推進 • 好調業種に加え、回復基調にある製造業への拡販
北米		<ul style="list-style-type: none"> • 新商品の投入 • TOYOTA/Raymondガバナンス統合によるシナジー最大化(商品相互供給の拡充等)
欧州		<ul style="list-style-type: none"> • 直営化・チャネル統合した販売網による拡販 • 東欧等、新規市場販売網の強化
中国		<ul style="list-style-type: none"> • 新商品の投入 • 成長する市場をとらえた積極的な販売活動
その他		<ul style="list-style-type: none"> • 新興国市場での販売網強化・拡充(中南米、インド、東南アジア ほか)

・事業の取り組み

1. フォークリフト市場の回復と当社の施策
2. 「新興国」「3E」をキーワードにリソースを投入
 - 1) 自動車事業の取り組み
 - 2) 産業車両事業の取り組み

自動車市場の動向と当社の対応

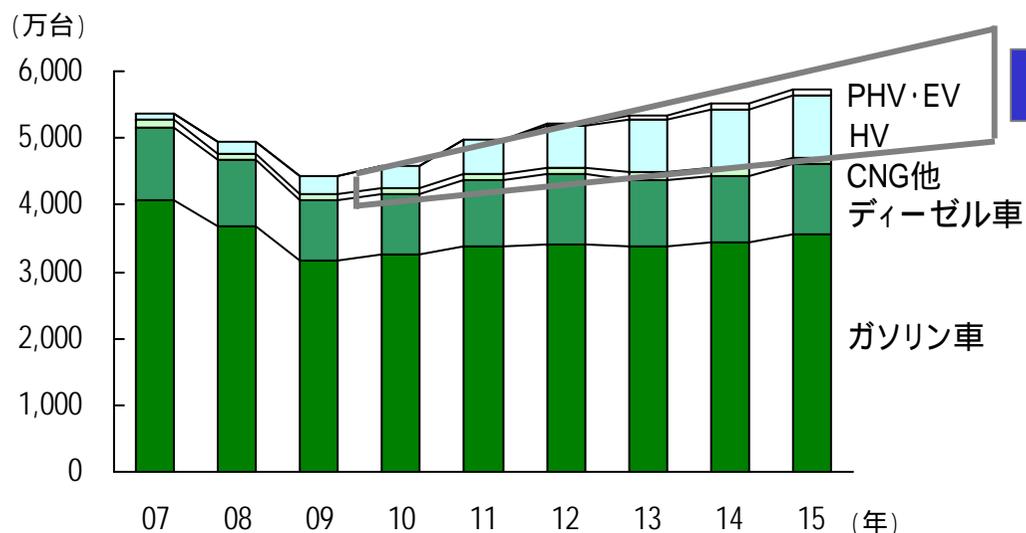
1. 【地域別】世界の乗用車市場



中国を中心とした新興国での販売台数の増加

成長が見込まれる中国市場でのコンプレッサー拡販

2. 【動力別】世界の乗用車市場

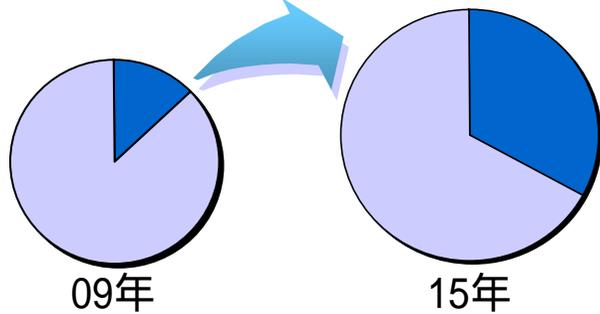


HV・PHV・EVの増加

3Eをキーワードとした商品開発

- ・ 電動コンプレッサーのシリーズ拡充
- ・ PHV・EV 関連事業展開
- ・ 樹脂ウインドウ開発

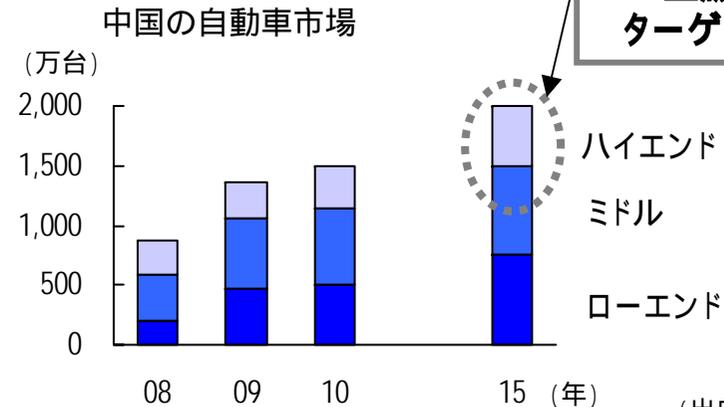
1. 中国市場における当社販売シェア目標



(出典) 当社推定

拡大する中国市場で
1/3のシェアを狙う

2. ターゲットとする領域



市場が拡大する
上級車種を
ターゲットに拡販

3. 上級車種への拡販策

STEP 1: 高い技術力を活かしたハイエンドクラスへの拡販

- 高付加価値モデルの技術営業強化

STEP 2: 市場ニーズに適合した機能・コストを達成し、ミドルクラスへ投入

- 現地調達率アップ、現地生産化、生産性効率アップ、技術サポート強化など

3Eをキーワードに全社を挙げて技術開発を推進



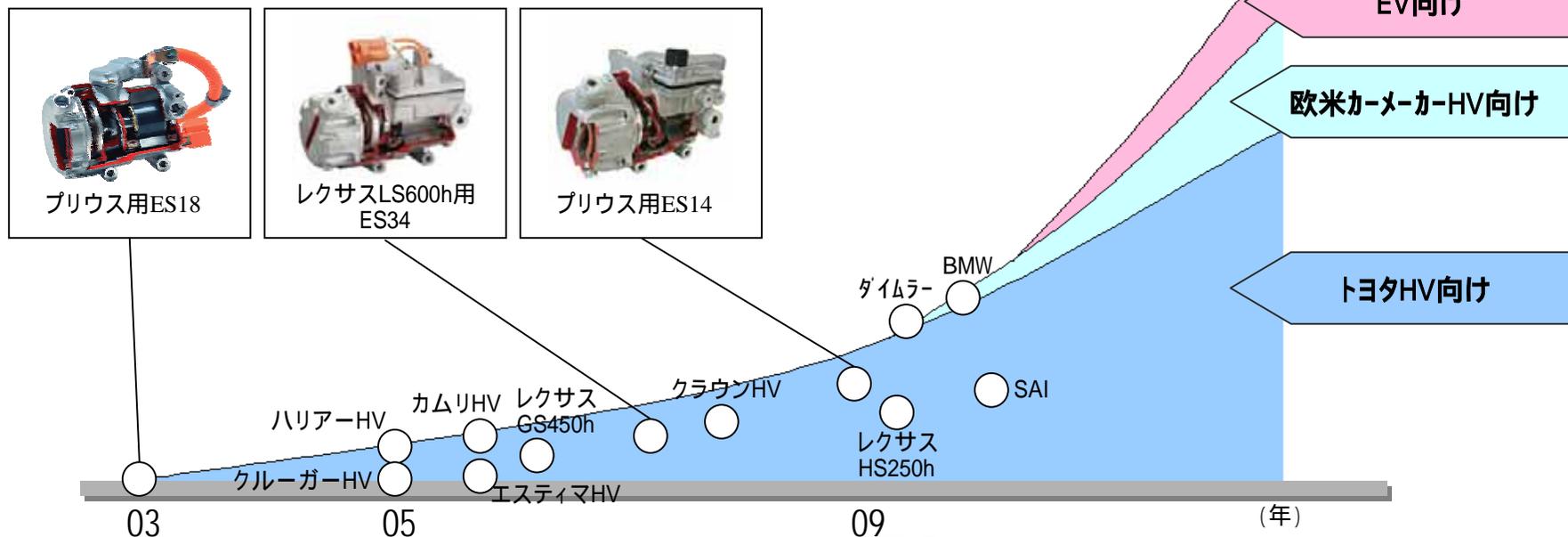
電動コンプレッサーのシリーズ拡充

自動車事業

- トヨタ・デンソーとの連携
 - コンプレッサー・エレクトロニクス両事業部の協業
- 小型・軽量・高効率な商品を開発**

1. トヨタHVの全車種をカバー
2. 欧州・北米カーメーカーのHVにも順次拡販
3. EV向けの拡販計画も着実に進展

今後拡大する電動車市場を確実に囲い込む



PHV・EV関連事業の展開

自動車事業

1996年～

2009年～

車載用機器



RAV4EV等
EV用充電器

トヨタPHV に搭載



車載充電器

車載充電器の
小型化・
高効率化により
拡販を狙う

充電インフラ

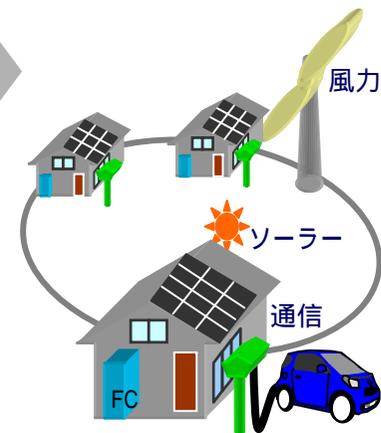
官公庁が推進する実証実験に参加中



充電スタンド 通信機能付き
充電スタンド ソーラー充電
ステーション

PHV・EV用充電設備および
利用管理システムの開発

スマートグリッドに
おける役割拡大



レクサスLFAに搭載されている軽量化技術

<樹脂ウインドウ>
クォーターウインドウ



<3次元炭素繊維強化樹脂
- CFRP >
クラッシュボックス*



レクサスLFA



<樹脂ウインドウ>
パーテーション



<炭素繊維強化樹脂-CFRP>
一体フロア*

樹脂ウインドウの商品化

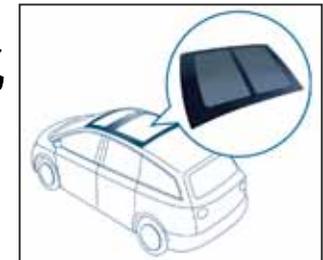
1. 樹脂ウインドウの特長

- 1) 車体の軽量化により、燃費性能の向上に貢献
- 2) 形状自由度が高く、クルマの画期的なスタイリングの提案が可能

2. 当社商品の強み

- 1) 耐久性を向上
- 2) 大型化技術を確立

パノミックルーフ商品化



*上記の炭素繊維強化樹脂部品は、トヨタ自動車と当社が共同で開発したものです。

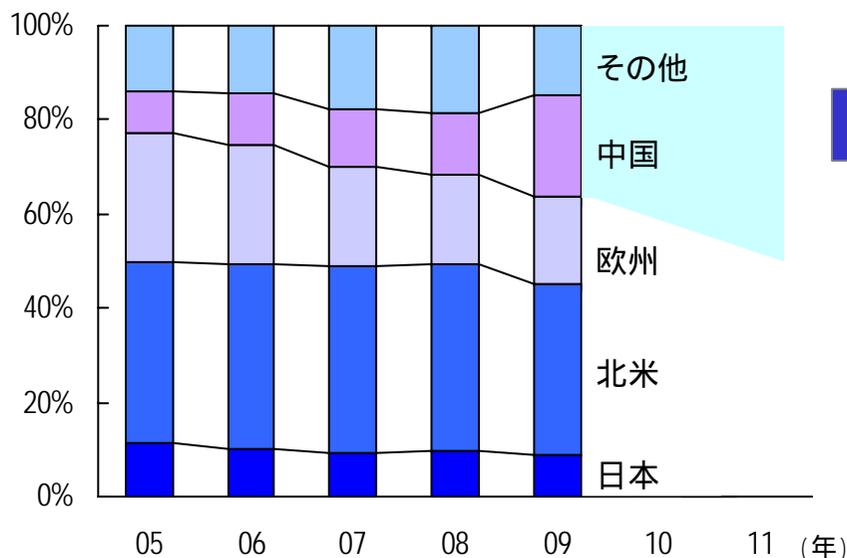
・事業の取り組み

1. フォークリフト市場の回復と当社の施策
2. 「新興国」「3E」をキーワードにリソースを投入
 - 1) 自動車事業の取り組み
 - 2) 産業車両事業の取り組み

フォークリフト市場の動向と当社の対応

産業車両事業

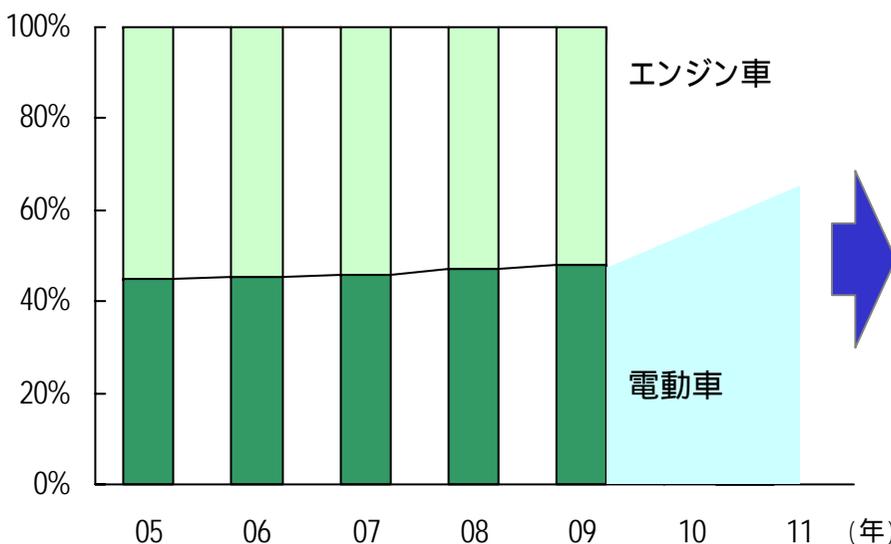
1. 地域別販売比率



新興国市場の拡大

- 中国向け新商品の投入
- 販売網の拡充

2. 動力別販売比率



電動車比率の上昇

- 電動を中心とした環境技術の強化

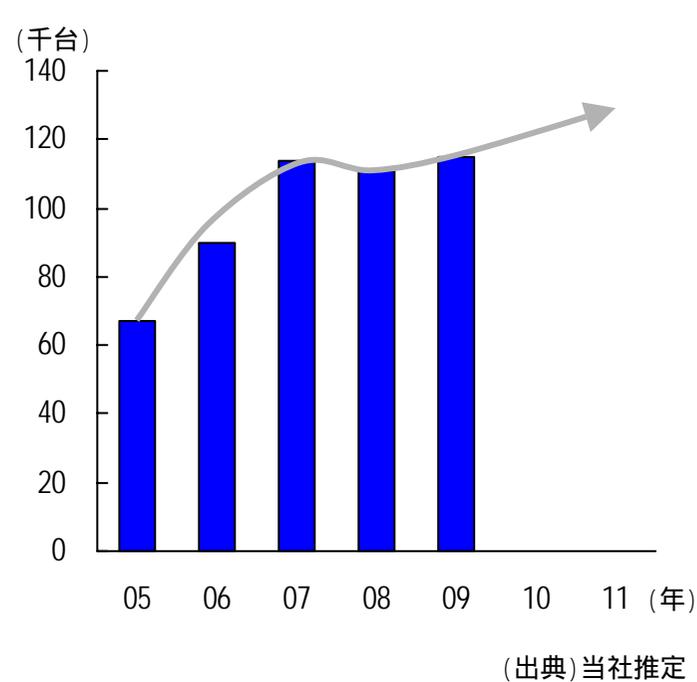
(出典) 当社推定



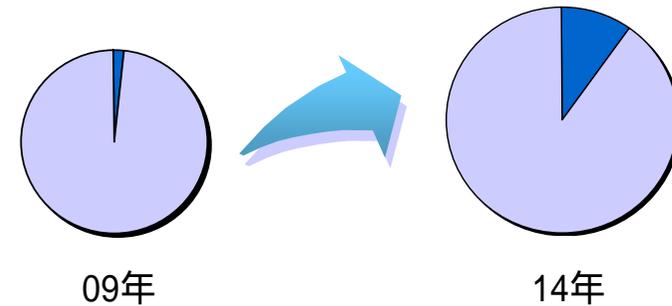
株式会社 豊田自動織機

1. 中国のフォークリフト市場

- 市場の着実な成長が見込まれる



2. 中国市場における当社販売シェア目標



(出典) 当社推定

3. 中国向けモデルの年内投入

- 機能・仕様の根本的な見直しによる競争力のある価格設定
- 品質面での現地車との差別化
- 現地生産
- 販売網拡充による販売力強化

開発の重点

中・小型は電動フォークリフト、中型以上はHVフォークリフト

1. 電動車のキーコンポーネント強化

モーター、コントローラーなどの機能を一層強化し、稼働時間をはじめとした基本性能の向上をはかることで、電動車の商品力を強化

2. エンジン式HVフォークリフトのさらなる強化

HVフォークリフトとしての走行・荷役性能を一層強化し、中型以上へシリーズを拡充



3. エンジン車の排ガス規制に対応

各国で強化される排ガス規制に対応するエンジン車を開発

. 決算詳細

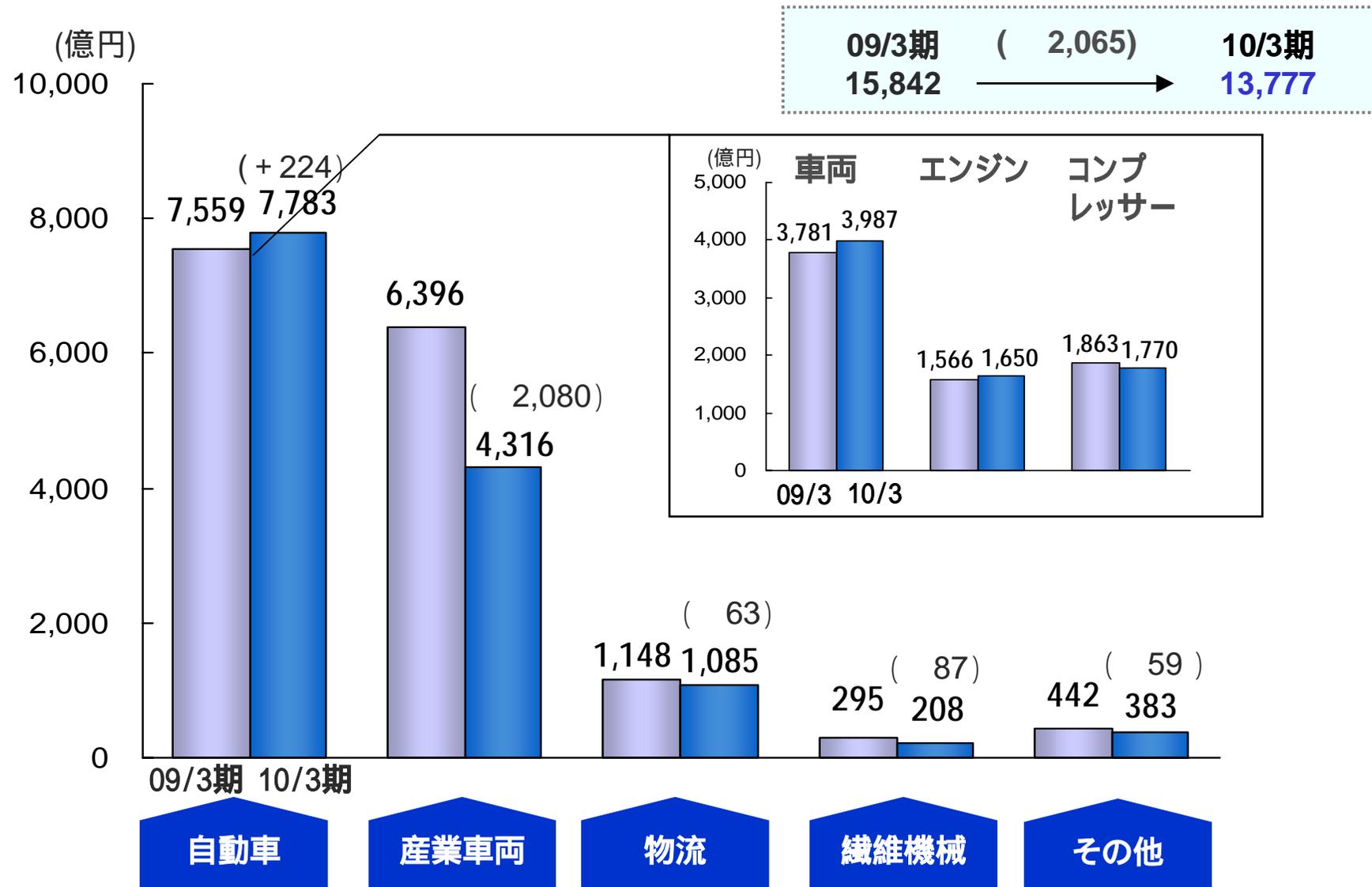
2010年3月期 決算実績

(億円)

	09/3期	10/3期	増減	増減率
売上高	15,842	13,777	2,065	13.0%
営業利益	66	220	+ 286	-
経常利益	143	317	+ 174	+ 121.4%
純利益	327	262	+ 65	-

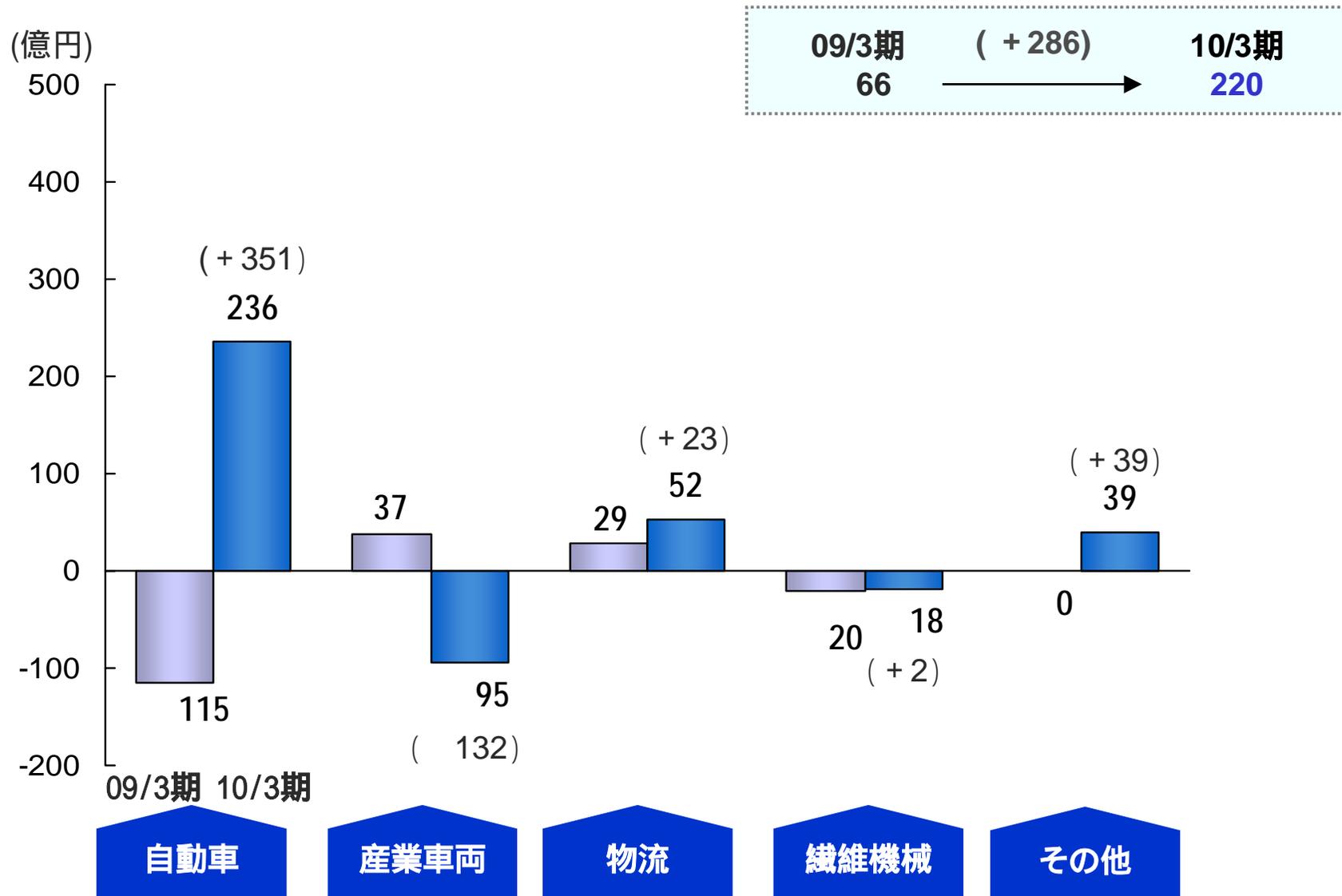
事業別セグメント売上高

2010年3月期 決算実績

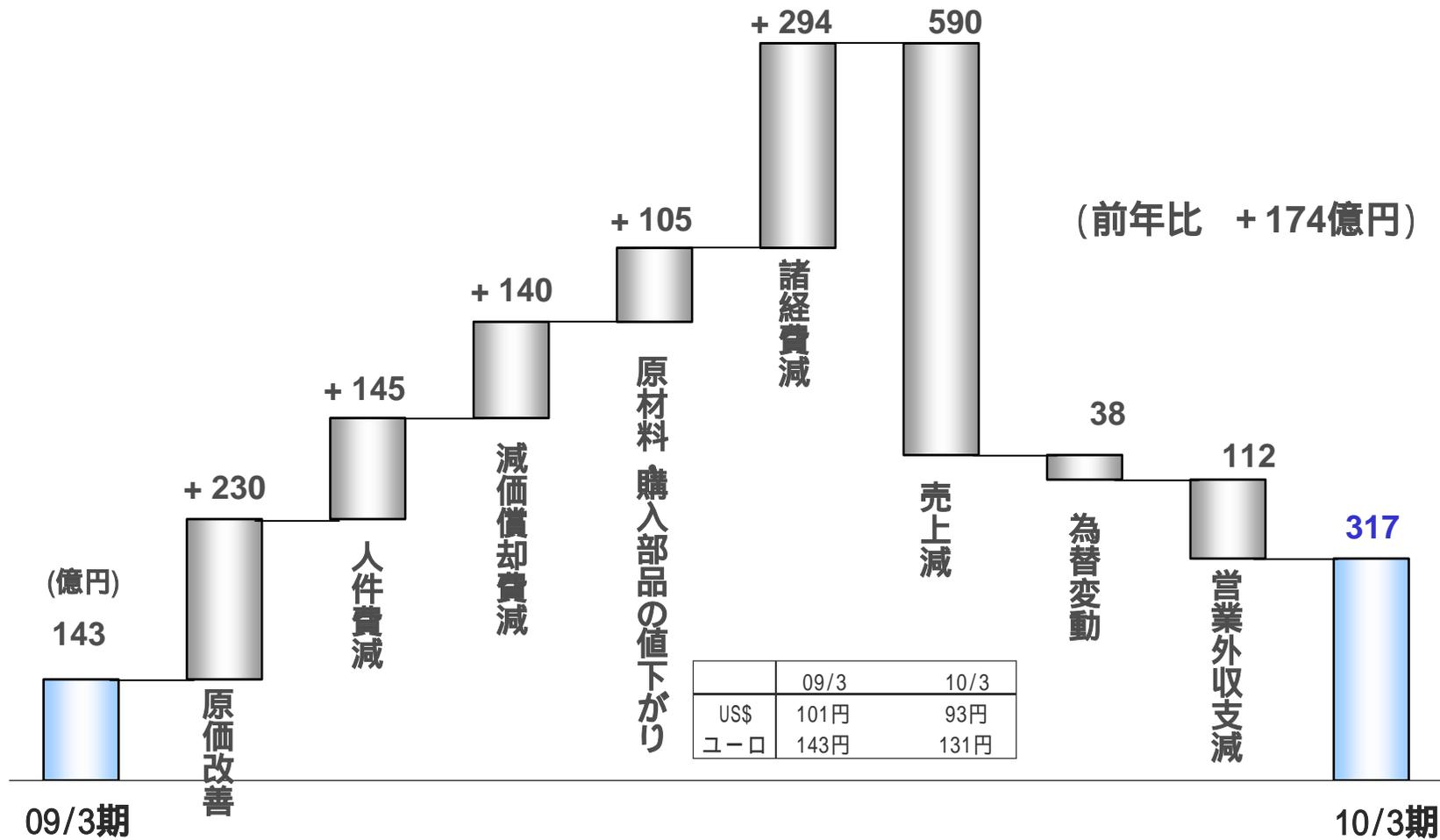


事業別セグメント営業利益

2010年3月期 決算実績



(09/3期と10/3期の比較)



	09/3	10/3
US\$	101円	93円
ユーロ	143円	131円

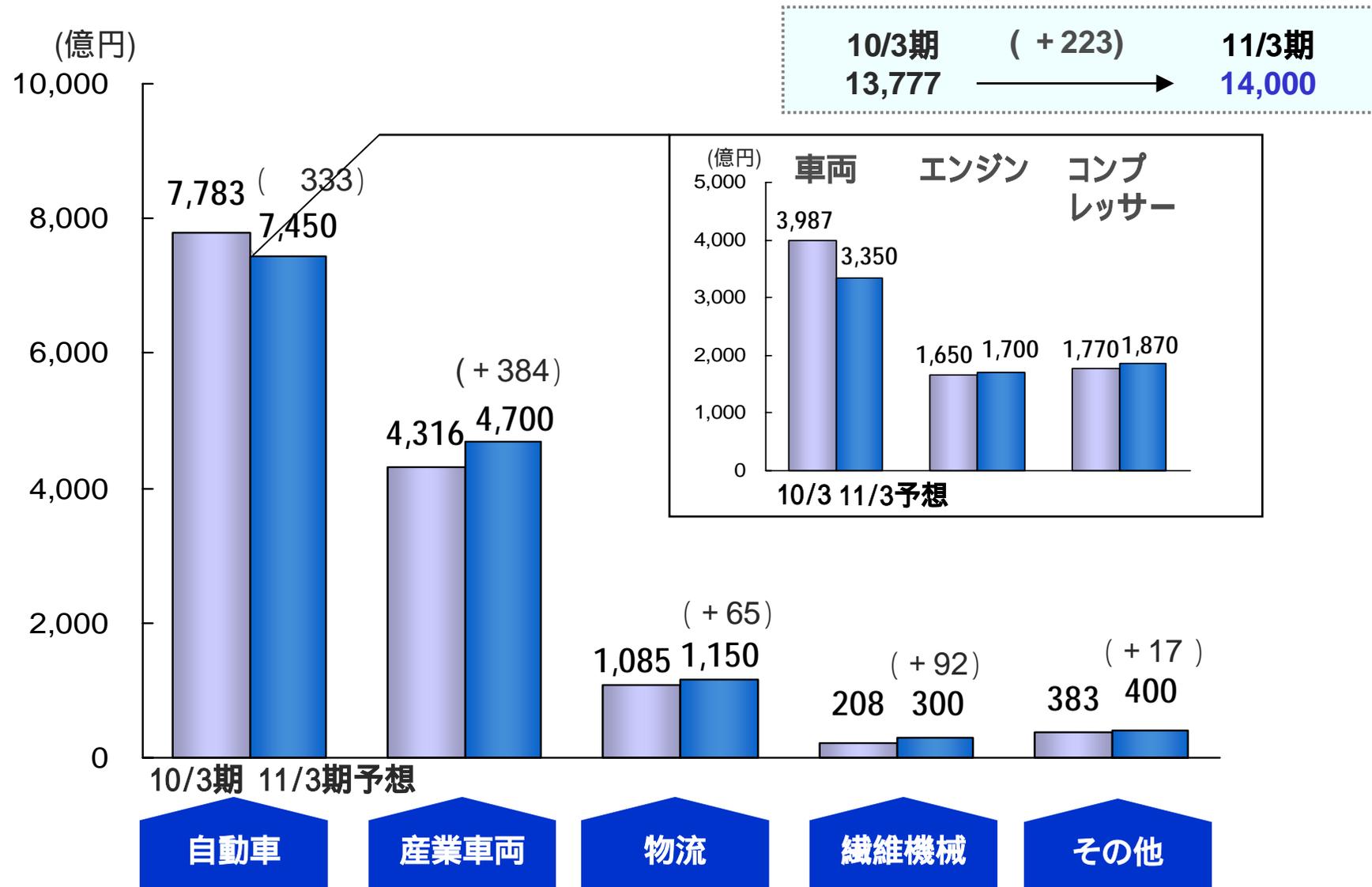
2011年3月期 決算予想

(億円)

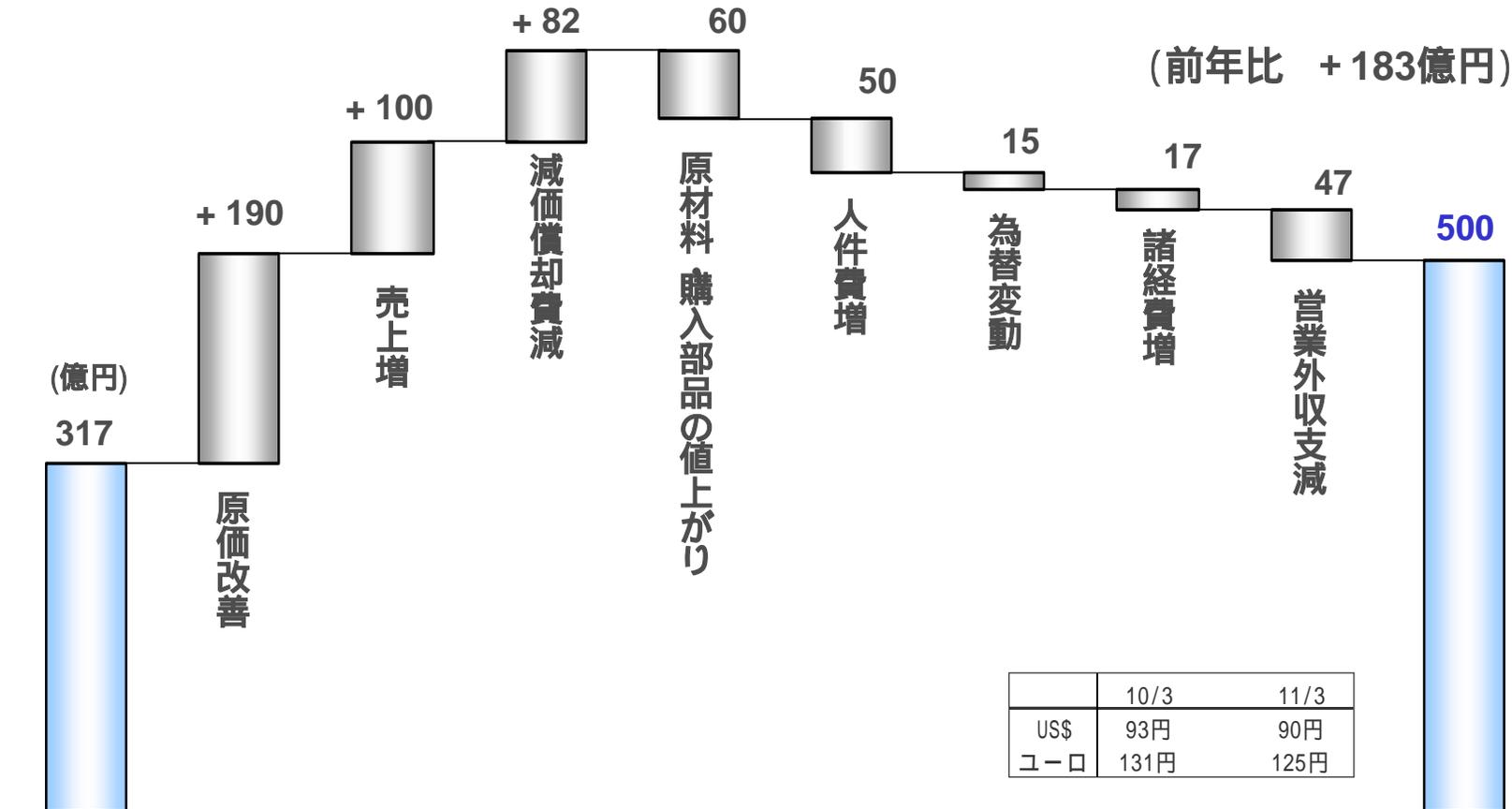
	10/3期	11/3期予想	増減	増減率
売上高	13,777	14,000	+ 223	+ 1.6%
営業利益	220	450	+ 230	+ 104.5%
経常利益	317	500	+ 183	+ 57.4%
純利益	262	270	+ 532	-

事業別セグメント売上高

2011年3月期 決算予想



(10/3期と11/3期の比較)

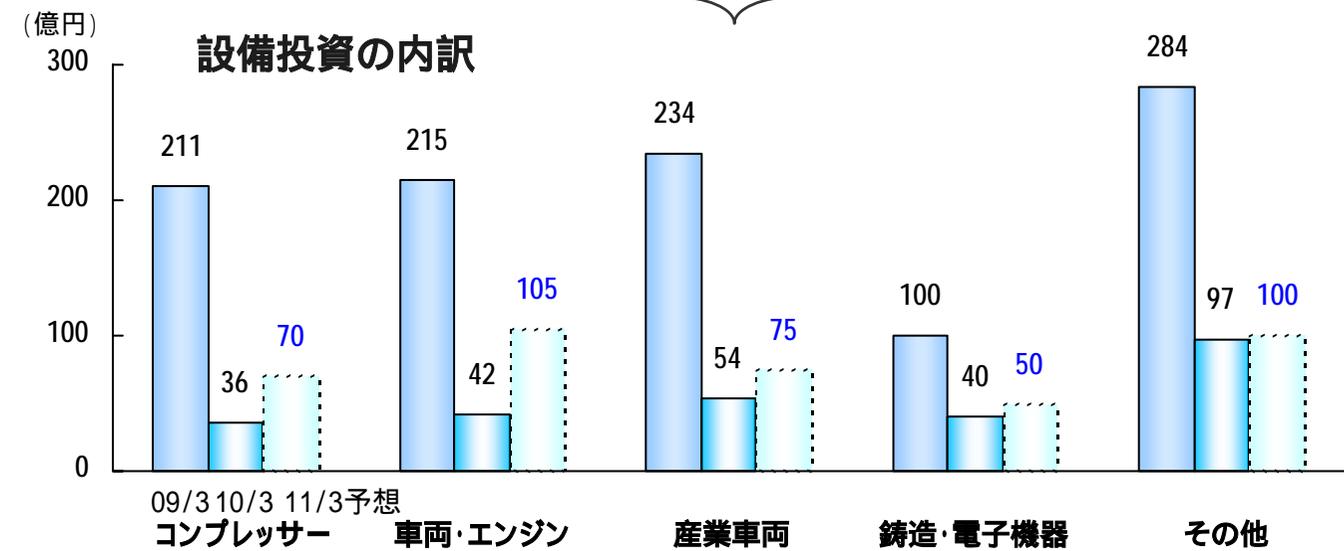
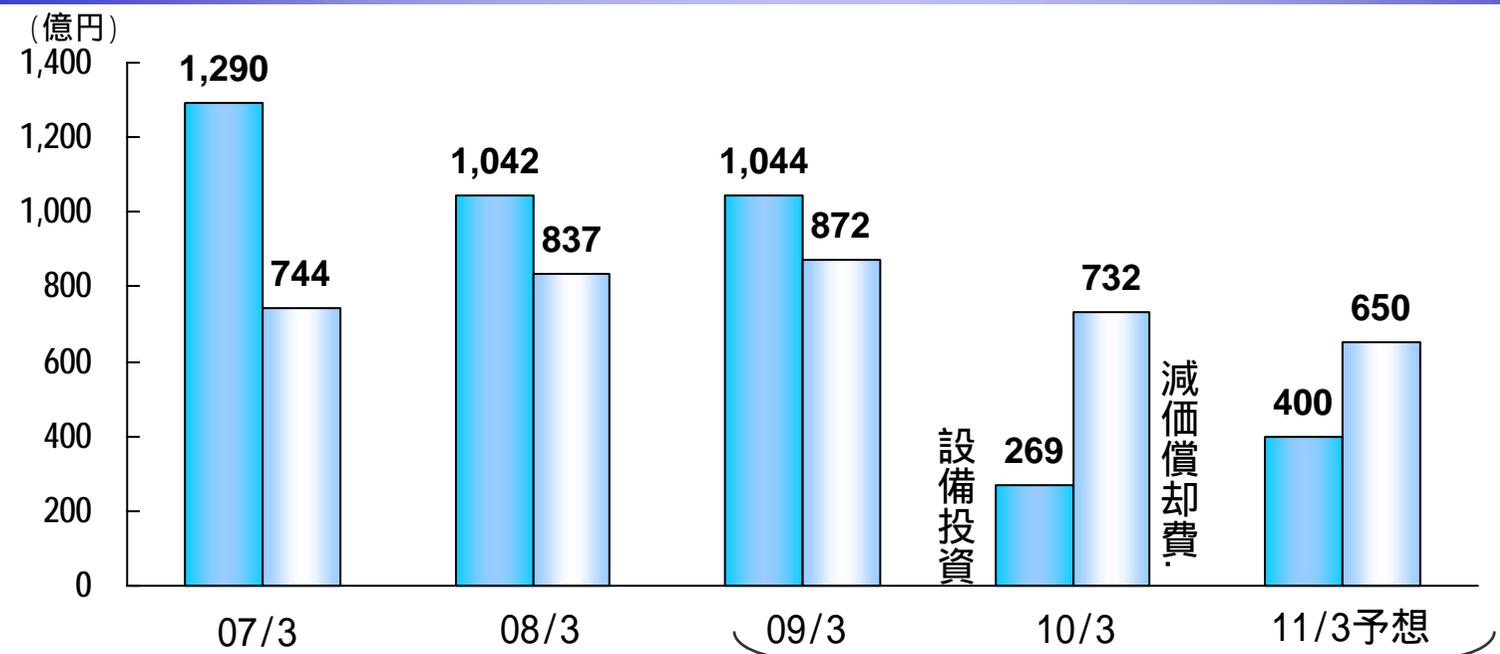


	10/3	11/3
US\$	93円	90円
ユ-ロ	131円	125円

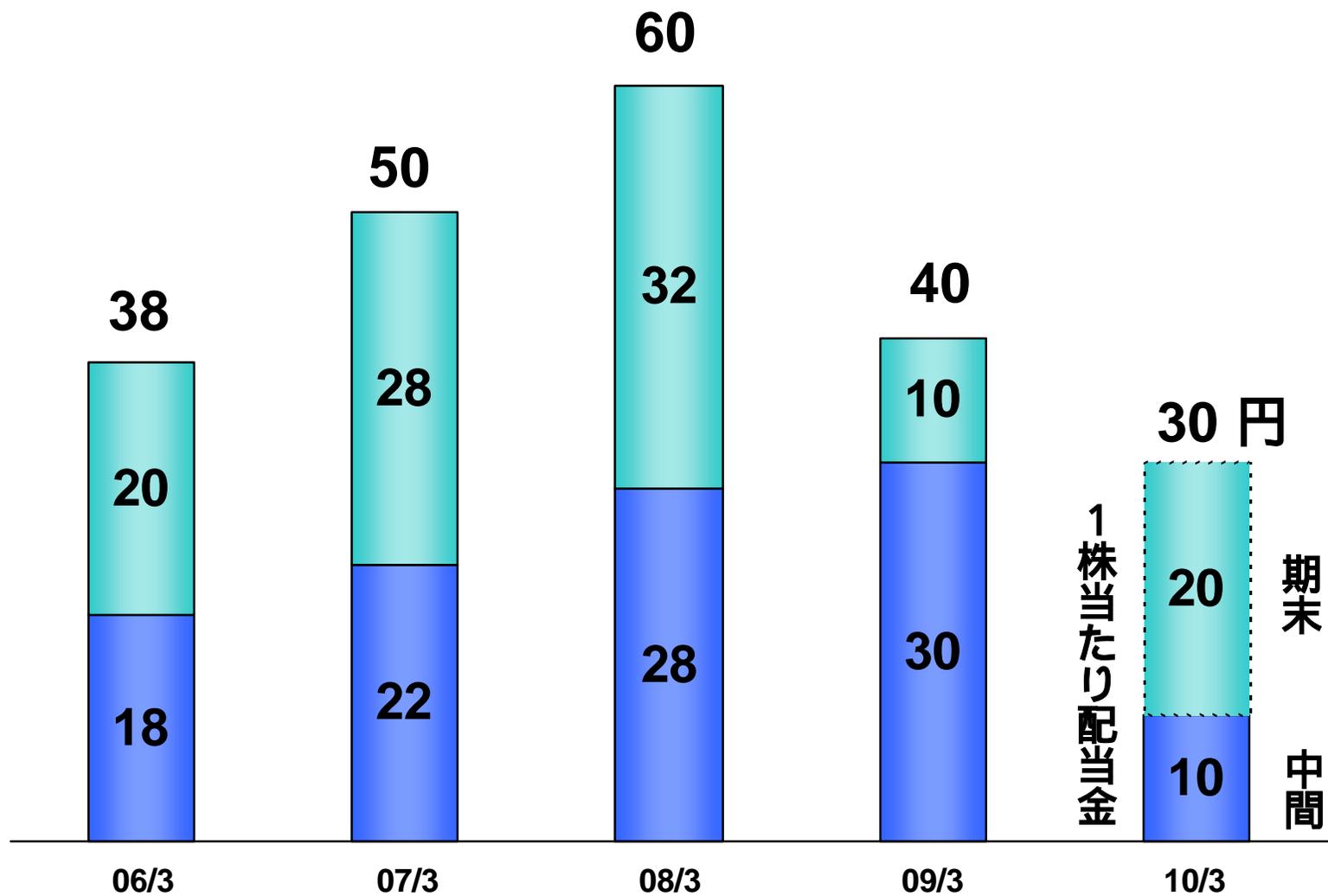
10/3期

11/3期
予想

設備投資・減価償却費



配当金



将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。

実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。